

経済学部 教授 松井暁

大学受験で浪人していた当時、社会に役立つ人間になるために進学をめざしているのだと自らに言い聞かせていた。だがしばしば心の闇の中から「それは結局、お前がエリートになるための口実ではないのか」という声が聞こえることがあった。

そんなある日、予備校帰りの本屋でこの小説をふと手に取った。ラスコーリニコフは結果のためには手段を選ばない。彼は人類の幸福のために強欲な金貸しの老婆を殺害する。主人公に感情移入しないように努めたのだが、当時の私にはなす術がなかった。鳥肌が立ち、めまいを覚え、吐き気を催してきた。ラスコーリニコフと同じように現実と幻覚の間を行き来した。正義や博愛といった崇高な理念すべてがまやかしであるように思えてきた。

最終的に作者は超越的なものに答えを見い出すが、私にはどうしても納得がいかなかった。なんとか受験勉強に復帰するまでに、内面での凄まじい格闘が必要だった。その過程で心身ともに打ちのめされ、スルメのようにぺしゃんこに潰されてしまった。それゆえまさに「読書のスルメ」にふさわしい作品なので紹介したが、決してお勧めはできない。「読書のスルメ」のコーナーにこの著作がおいてあっても、絶対に手を触れないでほしい。さもないとこの本に永久に取り憑かれ、あなたの人生の歯車が狂ってしまうであろう。



罪と罰 改版/ ドストエフスキー作 ;
中村白葉訳 岩波書店, 1958.12-
1959.2(岩波文庫)

本 館: X/080/I95R DOS



罪と罰 改版/ ドストエフスキー作 ;
江川卓訳 岩波書店 , 1999.11-
2000.2(岩波文庫)



神田分館 X/080/I95R Dos

